

第45回公共施設等総合管理計画 策定推進本部	日時	令和7年6月17日(火) 8:46~9:21	場所	庁議室
出席者 (15人)	白井市長、神山副市長、古橋副市長、大熊教育長 梅原企画財政部長、高橋庁舎建設等担当部長、鈴木総務部長、深澤市民部長、柿崎環境部長、高橋福祉保健部長、堤子ども家庭部長、若藤都市整備部長、大澤学校教育部長、平野生涯学習部長、伏見議会事務局長			
欠席者	なし			
事務局	企画政策課 郷古公共施設マネジメント推進担当課長 保育課 中島保育施策調整担当課長			
議題	1 (仮称) 小金井市保育の在り方に関する方針(案)について			
資料	1 (仮称) 小金井市保育の在り方に関する方針(案)について			
(進行: 企画財政部長)				
【議題1】(仮称) 小金井市保育の在り方に関する方針(案)について				
(本件については、子ども家庭部長が説明を行った。)				
○ 前回の庁議内容を資料の1のとおり、答申尊重ということ、4つの役割を果たすこと、それらを踏まえ園数については市として対応が必要なこと、他の事業等への影響を最小限とすることの4つにまとめている。				
○ 2の園数に係る検討結果として、(1)のとおり保育定員の減員についてスペースの生み出しが必要であること。(2)については、①保育定員の観点、②老朽化対応の観点、③地域ブロックの観点について、それぞれ整理をしている。以上のことから、保育定員を減員した上でわかたけ保育園、小金井保育園、けやき保育園の3園が最適であるという結論である。				
○ 3の各部への依頼として、必要な対応をお願いする。				
○ 4の方針(案)の構成については、たたき台として記載している。来週の庁議で示せるようにしたい。				
(以下の要旨で市長から発言があった。)				
○ 一つの論点として、園庭保有割合が多摩地域において最下位となっている。それが更に減少することとなるが、総合的に検討した結果は先程説明のとおりである。引き続き各部においても協力をお願いする。				
【関連質疑等】				
○ 現行方針の2園から3園に変わるのであれば、具体的にどのように変わるのか整理をして示していただきたい。その上で判断をしていきたい。				
○ 2園から3園に変更となると、具体的な職員数が書かれていないが、予定より職員が多く残ることになるかと思う。ほかの部署でも人員が厳しいところがあるので、バランスが取れるように考えていただきたい。				
○ 職員数については、サービス拡充を含めても減っていくと思われるが、具体的な数字を早く出してほしい。わかたけ保育園は長寿命化が困難と思われるが、今後の対応やその財源についてどのようにするのか。サービス拡充の中で、特別支援保育の枠の年齢撤廃はどのように整理していくのか。				
→ 職員数については、労使協議もあるので、企画財政部と調整を行う。わかたけ保育園は長寿命化で耐えられるかなど追って整理することとなる。				
→ 特別支援保育の枠の年齢撤廃については、受入れている実態もあるため、その方向で調整していく。医療的ケア児については、現場の職員と調整し、ガイドラインなどで明記できればと考えている。一時保育での配慮が必要な児童の受入れについては、必要な職員数が確保できれば実施できると考えている。				
○ くりのみ保育園が9年度末、さくら保育園が10年度末に廃園という認識でよいか。				
→ そのとおりである。				
○ 方針(案)では、どこまで具体的な数字を出せるのか。また、9月の条例改正に向けて、総務課と調整はしているのか。				
→ 職員数について、方針(案)の段階では、労使合意に至っていないため具体的な数字は記載できない。				

方針を最終決定する際に記載するかどうか検討したい。条例改正については、総務課と適宜調整したい。

- これまでの3園廃園は人員や財源、国の動向などを鑑み、苦渋の決断だったかと思うが、市として判断をしてきた。今回答申を尊重し、2園廃園とするには、課題とされていたことが解決されていないと一貫性がなくなってしまうのではないか。
- 前方針で3園廃園し2園とする理由であった5つの課題に対してどうするのが見えてこない、答申を尊重するだけでは説明不足ではないかと思う。
- 5つの課題に対して方針で何らか言及すべきとは考えているが、より果たさなくてはならない4つの役割との最適解を目指さなくてはならないと考えている。

— 以上で、会議終了 —